あいのその　2024年7月号

「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」

（申命記６章５節）

愛の園保育園　042-325-1045

・・　今から２０年ほど前に「メイドカフェ」というものが流行り、社会現象になりました。これはメイドの核好をした店員が来店した客に対し、「いらっしゃいませ」ではなく「お帰りなさませご主人さま」と挨拶をすることに特徴があります。これが流行った理由として、ある学者は「社会において自分のことを何者でもないと感じる多くの人にとって、“ご主人さま”と呼んでくれることに、自分の存在意義を実感できることが快感だからではないか」と分析していました。

日本語で翻訳された聖書においても、「神」を表現するときに「主（主人）」という言葉がたびたび用いられます。旧約聖書が書かれているヘブライ語の原文では「יהוה」と書いて「ヤハウェ」と読み、キリスト教の前身であるユダヤ教では神をもともとそのように表現していました。ところが、神の名を滅多なことで口にしてはならないという教えを忠実に守るあまり、年月が経つにつれてユダヤ社会では「神」を表現する文字はあるけれども、その発音の仕方を誰もわからなくなってしまったといいます。冗談のような本当の話です。そこで聖書を朗読する際に「יהוה」と書いてある部分は、「私の主」という意味の「אדנ（アドナイ）」という言葉に置き換えて読むようになりました。このため、こちらが神の名を表す固有名詞となり、これがギリシア語訳の聖書に意訳された際にも「主」を意味する「Κύριος（キュリオス）」という語が用いられました。これがキリスト教に踏襲され、各国語においても、「神」の固有名詞として「主」にあたる言葉が用いられるようになったのです。

新約聖書では、イエス・キリストを「主」と呼ぶことがあります。これは、上記のような言語学上のややこしい考え方に基づくものではなく、イエスという方をただひとりの「救い主」「私の主人」「私の神」として捉えるという信仰の告白の言葉です。

しかし私たちはその自分の主人に対して、メイドカフェの店員のように「お帰りなさいませ」とは言いません。むしろ逆に、主人であるイエス・キリストの方から、いつでも私の許に来なさい、いつも帰ってきなさいといって迎えられている存在だからです。聖書は繰り返し「あなたの神、主を愛しなさい」と教えますが、それは何よりもまず、イエス・キリストが私たちの神、私たちの主として私たちを愛し、招いてくださっているからなのです。

（牧師　西脇　正之）